

森の国の学び舎

茂木町立茂木中学校改築工事落成記念

教育は100年、植林は50年の

町有林を活用した町の歴史と町民の心に残る学び舎づくり



「町有林を活用した町の歴史と町民の心に残る学び舎づくり」を基本コンセプトに、旧逆川財産区の町有林の樹齢 70 年から 90 年の杉、桧を活用し、茂木中学校の改築に取りかかりました。

旧逆川財産区は、大正2年から当時の河原源九郎村長が先頭に立ち、将来の財政への寄与を図り、全戸出役により150haの山林に杉・桧の苗木65万本の植林を続け、昭和56年まで下草刈りや枝打ち、間伐作業を行ってきました。

その後財政難から平成8年に町へ移管されましたが、子孫の繁栄を願う先人達の偉業、 地域住民が受け継いできた歴史が樹木と共に 朽ち果ててしまわないよう、旧逆川財産区の 樹木を中学校改築事業に活用したいと考えま した。

町有林にかかわってこられた多くの皆様に 心からの敬意を表し、最長 12 mの丸太材や 無垢の梁材を利用した構造を採用し、天井、壁、 床などの内装もすべて無垢の板材で仕上げて います。

木造校舎は、鉄筋コンクリート造にくらべ、 柔らかで温かみと潤いのある教育環境と、落 ち着きや安らぎを与える効果が期待できると 言われています。さらには、町の林業の活性 化や学校での教材としても活用できると考え 事業に着手しました。





屋内運動場



玄関と格天井

逆川村公有林記念碑「惠澤洽著」の碑

私たちの祖先の人々が約100年間にわたり平和で明るい豊かな村を築くために、村民一丸となって焼森(約150ha)に苗木を植え、手入れを続けてきた。祖先たちの尊い血と汗の結晶が「焼森」である。

その結果、村の財政や村民の生活は豊かになり、教育環境の整備として小中5校が建設され、納税完納の「模範村逆川」として天皇陛下より賞詞を賜った。

この偉業は子々孫々に至るまでその精神を忘れてはならない。 (碑文要約)

昭和26年 文 参議院議員 徳川宗敬書 東京都知事 岡田周造



児童生徒の校外学習から



木材の確保状況

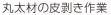
平成17~18年度に旧逆川財産区の2ヶ所 の町有林(約30ha)から、上層間伐により丸 太材約630本、構造用角材約5.000本、床 板材約10,000枚、腰板材等約30,000枚、 合計で約1,580㎡の材料を確保しました。上 層間伐と集積作業、丸太材は皮むき搬出、自 然乾燥用ストック作業、さらに角材・板材の搬 出、製材、自然乾燥用ストック作業を芳賀地区 森林組合に委託し、旧クラリオン跡地で仮設の



町有林の伐採 (上層間伐作業)

木材調達の一連の作業内容







防腐剤の散布



1本1本の寸法を検測